（様式１）

１　自己評価及び外部評価結果

作成日　　令和　　４年　４　月　２０日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3472500895		
法人名	医療法人社団親心会　小西脳外科内科医院		
事業所名	グループホーム湯舟の里		
所在地	広島県東広島市高屋町造賀２９６１ （電話）０８２－４３０－２２１０		
自己評価作成日	令和4年3月7日	評価結果市町受理日	

※　事業所の基本情報は，介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先ＵＲＬ	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3472500895-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年3月31日

【事業所が特に力を入れている点，アピールしたい点（事業所記入）】

① 医療機関との密な連携・協力体制　② 他部署との入居者様、利用者様との交流　③ 地域資源（地域行事・保育所等）との交流　④ 家族会や行事による、ご家族様と入居者様との絶えない関係作り　⑤ できる限り施錠せず、家庭的で自由な空間・雰囲気・環境づくり　⑥　施設イベント（演目発表会・作品展示）の地域の方や家族の参加　⑦　オカリナ発表会への手話＆オカリナでの参加・出演

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、地域住民のかかりつけ医でもあり、地域の核でもある医院に併設されている。その医療法人の多くの人的資源によるなじみの関係が利用者にも家族にも安心と信頼を与えている。認知症を職員がよく理解し、利用者の言動を否定せず、その人の背景や思いを尊重し、一人ひとりの個性を大切にしながらも過剰なケアを行わず、残存能力を活かした自立支援の取り組みを行っている。オムツを使用しない方針は徹底され、そのための工夫にも取り組んでいる。野菜を切る、味付けをするなど利用者の役割を最後まで発揮するにはどうしたらよいかを常に考え、生きがいを引き出す取り組みが行われている。イカと里芋の煮物が食べたいと聞くと、職員がすぐ作って提供するなど笑顔のある食事の取り組みも行われている。

自己評価	外部評価	項　目（　さくら館　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ　理念に基づく運営					
1	1	**○理念の共有と実践** 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員は，その理念を共有して実践につなげている。	理念を作成して、ホーム内の目にふれやすい場所に掲示してある。時代の言葉に即してその都度更新している。	地域の一員として地域を支え、支えられる役割を掲げる理念とケアに関する理念の二本柱から事業所理念を作成している。保育所交流会、 草刈りなど地域とのイベント行事を通してその理念を共有し実践に繋げている。行事で昔の知り合いと触れ合う機会が利用者のケアにも反映されている。	
2	2	**○事業所と地域とのつきあい** 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ホームの行事、地区の行事で積極的に交流していたが、今年度はホーム行事（奉仕作業・晩夏、お庭でコンサート）のみ。推進会議は、できる限り行っているが、書面のことが多い。	以前は文化祭、作品展などに地域の人を招待して地域交流を行っていた。コロナ禍では職員のオカリナの演奏、太鼓や看護師の声楽など利用者と家族のみの参加で行われている。認知症を地域の人に知ってもらう講習会を毎年開催し交流している。	
3		**○事業所の力を活かした地域貢献** 事業所は，実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を，地域の人々に向けて活かしている。	推進会議で近況、入所状態を話し合っている。		
4	3	**○運営推進会議を活かした取組み** 運営推進会議では，利用者やサービスの実際，評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い，そこでの意見をサービス向上に活かしている。	書面による運営推進会議が多いが、開催できた時は、有意義な意見交換ができ、サービスに活かしている。	運営推進会議には毎回、元利用者の家族３名、地域住民２名が参加し、話し合いに参加している。その話し合いで奉仕作業活動がしたいとの要望があり、実行に移し、その取り組みを地域のサービス向上に活かしている。	
5	4	**○市町との連携** 市町担当者と日頃から連絡を密に取り，事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら，協力関係を築くように取組んでいる。	市の担当者にも運営推進会議に参加して頂いている。運営推進会議の議事録、ホーム便りを市に届けて連携に努めている。	運営推進会議には毎回地域包括支援センターの職員が参加し、地域情報、イベントの情報などを伝えてもらっている。日ごろから市とは行事やケアサービスの取り組みを理解し関心を持って協力してもらえるようホームだよりを議事録と共に届けている。	

自己評価	外部評価	項　目（　さくら館　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	**○身体拘束をしないケアの実践** 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており，玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中、全ての出入り口は施錠していない。自由に出入り出来る環境を整えている。言葉による身体拘束も気を付けている。研修に参加し、少人数によるミーティングで伝達講習をしている。	身体拘束をせずとも人間力を活かし、安全を守ることは可能であるという事業所の姿勢が職員に徹底されている。特にスピーチロックの具体的注意点などトイレにも掲示し、言葉がけなどは日常的に振り返り、検討し対策をケアに取り入れている。	
7		**○虐待の防止の徹底** 管理者や職員は，高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち，利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い，防止に努めている。	常に職員同士で話し合いの場を持ち、見過ごしはないか注意を続けている。年に1回勉強会をしている。		
8		**○権利擁護に関する制度の理解と活用** 管理者や職員は，日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち，個々の必要性を関係者と話し合い，それらを活用できるよう支援している。	推進会議の時、包括支援センターの方に成年後見制度などについて説明して頂いている。		
9		**○契約に関する説明と納得** 契約の締結，解約又は改定等の際は，利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね，十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ホーム内の見学・説明をしている。パンフレット・重要事項のしおりを見て頂き、不安や質問を聞いて入居の運びとなる。		
10	6	**○運営に関する利用者，家族等意見の反映** 利用者や家族等が意見，要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け，それらを運営に反映させている。	家族会会議が出来ない中、家族会長様の案で、ご家族様アンケート・個別面談などを行い、ご意見を聞き運営に活かしている。	家族会よりコロナ禍の身体・精神的不安をアンケートで聞くことを提案し、実施している。利用者の筋力低下など家族の不安や意見に対し個別に手紙で返答している。面会の要望などは個別面談で対応している。ニュースを観た利用者から感染防止の黙食が提案され、実施している。	

自己評価	外部評価	項　目（　さくら館　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は，運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け，反映させている。	ミーティングは少人数で行っている。出来るだけ議題を集めてから話し合うようにしている。	法人の統括施設長が職員や利用者目線の要望を事前に把握し対応しているが、職員の提案も日ごろから聞く機会が設けられ、話しやすい環境を整えている。洗濯物を日勤職員が畳み、仕分けしていたが、夜勤が担当すれば利用者に関わる時間が増えるとの提案で改善されサービスに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は，管理者や職員個々の努力や実績，勤務状況を把握し，給与水準，労働時間，やりがいなど，各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	ADLの変化に伴うことで、職員の人員配置・労働時間・勤務状況など柔軟に対応出来るようにしている。また勤務中の転倒防止やストレスケアについて勉強会なども行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は，管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し，法人内外の研修を受ける機会の確保や，働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ミーティングにて、伝達研修を行っており、管理者・職員マニュアルにのっとり教育を行っている。施設内の勉強会・外部研修も積極的に参加を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は，管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり，ネットワークづくりや勉強会，相互訪問等の活動を通じて，サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム協会の研修・総会の参加に努めている。		
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で，本人が困っていること，不安なこと，要望等に耳を傾けながら，本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居に際し、ご本人・ご家族様に要望や情報を拝聴している。その後のコミュニケーションを通して聞いたことや生活後の本人の希望などスタッフ間で情報の共有をしている。		

自己評価	外部評価	項　目（　さくら館　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で，家族等が困っていること，不安なこと，要望等に耳を傾けながら，関係づくりに努めている。	入居までの生活状況・不安に思っておられる事など事前にお聞きしている。その他にも面会時やイベント毎に場を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で，本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め，他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人・ご家族様双方の意見や要望をまとめて全体的にとらえ、納得のいくサービスが提供出来るように努めている。とにかくしっかり話を聞くことに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は，本人を介護される一方の立場に置かず，暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日々の生活の中で、料理・洗濯・掃除など、スタッフと共に手伝って頂いている。教えてもらったりして、共に生活する家族のような関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は，家族を支援される一方の立場に置かず，本人と家族の絆を大切にしながら，共に本人を支えていく関係を築いている。	行事・イベントに出来るだけ参加して頂き、ご本人も含めご家族の方とお話をする機会を設けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう，支援に努めている。	ご家族・契約者様の拒否がない限り、できる限り昔なじみの方や近所の方など面会して頂いている。コロナ禍では、直接接触しない形で面会して頂いている。	施錠をしていない玄関から近隣の馴染みの人たちが訪れ歓談する関係継続を見守り支援している。外泊、外食、お墓参り、美容院などに出掛ける支援も継続して行っている。昔の教え子に電話で連絡をとりたい利用者の要望に応え、大切な関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項　目（　さくら館　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し，一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い，支え合えるような支援に努めている。	テーブルを囲んでのおしゃべりやレクリエーション等で皆が関われるように努めている。難しい場合はスタッフが間に入ったり、少し距離をあけるなどして、孤立する方がいないように気を配っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても，これまでの関係性を大切にしながら，必要に応じて本人・家族の経過をフォローし，相談や支援に努めている。	死亡による契約終了時には相談支援はほとんどない。転院等の場合は、相談にのったり、関係が継続するように努めている。契約終了後も推進会議やホーム行事、文化祭などお誘いし参加下さっている。		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望，意向の把握に努めている。困難な場合は，本人本位に検討している。	出来る限り本人の希望に耳を傾け、意向にそえるよう努めている。困難な場合には、家族を含め担当スタッフを中心に検討している。	担当の職員が部屋で着替えを手伝う際、吐露した思いを受け止め共有している。朝遅くまで寝ていたいとの要望には７時起床を８時半にし利用者の願いに寄り添うよう取り組んでいる。思いを伝えることが困難な利用者には家族から元気だった時の様子や好きなことを聞き、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方，生活環境，これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族・ケアマネからの情報や、本人の日々の会話・コミュニケーションの中から生活歴を見つけ、サービスにつなげ、向上に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方，心身状態，有する力等の現状の把握に努めている。	旧の生活状態を入居者様ごとに記録し、変わっている様があれば、申し送り等で全スタッフが把握し対応できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項　目（　さくら館　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について，本人，家族，必要な関係者と話し合い，それぞれの意見やアイデアを反映し，現状に即した介護計画を作成している。	よりよいサービスを提供できるよう、ご本人・ご家族様とスタッフが話し合いを持ち、全体ミーティング等で気づき・アイディアを出し、介護計画を作成している。ご家族様の要望も聞いている。	家族の意見を反映させた計画を計画作成者が作成し、モニタリングを行い、担当職員が点検している。点検後、家族に説明し意見を聴きミーティングを行う。法人の統括施設長も話し合いに参加し、看護師としての視点で褥瘡ケアなど現状に即した意見や対応を取り入れた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果，気づきや工夫を個別記録に記入し，職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子等、ライフシートに細かく記録し共有している。それをもとに全体ミーティング時に意見交換し、ケアの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況，その時々に生まれるニーズに対応して，既存のサービスに捉われない，柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ケアプランの施設サービス計画書を活用し、日々の個々のニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し，本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	年間行事として、保育所との交流・地域行事（とんど・運動会・秋祭り・神楽）などに参加していたが、コロナ禍で今年度は、保育所との交流のみ。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は，本人及び家族等の希望を大切にし，納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら，適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人・ご家族様の意向に添ったかかりつけ医と密に連携している。安心して適切な医療を受けていただけるよう支援している。	経営母体である医院は地域医療の核となっており、利用者のほとんどのかかりつけ医でもあるため、そのまま継続して受診している。利用者や家族は最後までかかりつけ医の受診を希望している。他科を受診するときは紹介状をもらい受診している。入院や重篤な場合は職員が同行支援している。	

自己評価	外部評価	項　目（　さくら館　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		**○看護職員との協働** 介護職員は，日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを，職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し，個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	入居者様の体調に変化がある場合は、すぐに看護師に連絡し、指示をあおぎ、医療と介護が連携できるよう支援している。		
32		**○入退院時の医療機関との協働** 利用者が入院した際，安心して治療できるように，また，できるだけ早期に退院できるように，病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は，そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	スタッフが見舞いに出向き、本人の好み・習慣・楽しみなどの情報提供に努めている。本人にもなじみの物・知っている顔が居ると安心されるので会話に努めている。入院時には必ずサマリーにて情報提供している。ADLや認知症の悪化の危険がある場合は、主治医を通して早期の退院を促してもらっている。		
33	12	**○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援** 重度化した場合や終末期のあり方について，早い段階から本人・家族等と話し合いを行い，事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し，地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時の段階で少しお話させて頂いて意向など聞いている。また時期をみて、ご家族様と面会を重ね意向を再度聞いている。それをもとに、スタッフ・ご家族様共々、良い看取りが出来るよう密に連絡を取り、支援に努めている。コロナウイルスの事についても、個別面談で意思確認を行っている。	利用開始時に終末の意向を確認するが、時期が近付くにつれ思いは揺れ動くので何回でも家族と話し合い、納得のいく看取りが行えるよう支援している。看取り介護の考え方、利用者や家族への具体的支援、方法、医師の説明など計画書を作成し、全職員で利用者、家族の支えとなるよう取り組んでいる。	
34		**○急変や事故発生時の備え** 利用者の急変や事故発生時に備えて，全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い，実践力を身に付けている。	マニュアルがあり、緊急時には速やかに対応出来るよう備えている。新人研修は勿論、定期的に対応の訓練など勉強している。		
35	13	**○災害対策** 火災や地震，水害等の災害時に，昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに，地域との協力体制を築いている。	年に2回、法人内にて訓練を行っている。コロナ禍のため、地域の方の参加者は減っている。	火災避難訓練には地域住民も参加協力している。町内会と協力して災害連絡網を整備している。水害時は隣接のデイサービスを利用しているが最近の想定外の災害に対応するため常にシュミレーションをし地域と連携して災害に備えている。	

自己評価	外部評価	項　目（　さくら館　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し，誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報に注意し、言葉使いを丁寧いしてプライバシーにも気を付けている。人生の先輩として尊敬の気持ちを忘れないようよう心がけている。	人格を尊重する言葉遣い、目上の方を敬う接遇、呼称もさんづけをし、日々利用者その人の背景や意図を考えて誇りを傷つけないケアを行っている。スピーチロックの状況を振り返り、どんな言動も否定せず、受け止め代替言葉を共有するように心掛けて接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり，自己決定できるように働きかけている。	スタッフ本意にならないように、自己決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく，一人ひとりのペースを大切にし，その日をどのように過ごしたいか，希望にそって支援している。	長く生活されている方の生活スタイルはだいたい決まっているが、新しい方に対しては情報収集をもとに声かけをさせて頂き、希望にそって支援出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝の起床時には、髪を整えたり・洗顔したりと気持ちよく１日を過ごして頂けるようにしている。服なども自分で選んでもらったり、一緒に選んだりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう，一人ひとりの好みや力を活かしながら，利用者と職員が一緒に準備や食事，片付けをしている。	それぞれの好みが反映されるよう、味付け・盛り付け等を手伝って頂いている。	利用者が食べたいと要望する思い出の味「いかと里芋の煮物」などはその都度、職員が準備し、食事の喜びを支援し共有している。巻きずしを巻いたり、ささがきごぼうなど切ったり洗ったり、味付けをしたり利用者に役割を発揮してもらう場を作る支援をしている。	

自己評価	外部評価	項　目（　さくら館　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	１日の水分摂取量を1500～1600CCとして、脱水症にならないよう気を配っている。食事に関しては、各人の必要な量・栄養に気を配り、必要に応じて食事形態を変えたり、器等を変えたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に、歯磨き・歯間ブラシ・舌ブラシ・うがい薬を使っての口腔ケアの支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	各人の排泄パターンを把握し、声かけ等をして習慣づけるよう支援している。これにより失敗やオムツ・パットの使用の軽減につなげている。使用するパットも各人に合わせて種類を変えている。	オムツを使用しない方針が徹底され、オムツをしている人はいない。筋トレに取り組んだ結果、トイレで座って出来る人が増え自立支援に繋がっている。夜間、パットを中パット５枚使用から大パット３枚使用に替えた結果、パット替えの回数が減り、安眠にも繋がる支援となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	予防として適度な運動や水分補給に気を配り、食事時に関しても食物繊維の摂取に気をつけている。また、排泄の有無をチェックし必要であれば、薬や看護師に依頼し浣腸介助して頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	多少の制限はあるが、出来る限り本人の希望日・時間にゆっくり楽しんで入浴していただけるよう努めている。	一番風呂や温めの湯、遅い時間の入浴を望む利用者には曜日や時間帯を組み合わせるなど可能な限り個々の利用者の希望に添うよう努めている。入浴は自立支援を前提に、見守りをしながら、背中や足の指など洗えないところのみ手伝う支援をしている。	

自己評価	外部評価	項　目（　さくら館　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて，休息したり，安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	各人の身体や気持ちの状況に応じて、体を休めたり、心を配っている。夜間も出来るだけリラックスして安眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用，用法や用量について理解しており，服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬１つ１つの目的・副作用等は勉強会を設け、薬剤師から直接指導を受けている。誤薬や飲み忘れのないよう管理を徹底している。		
48		○役割，楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように，一人ひとりの生活歴や力を活かした役割，嗜好品，楽しみごと，気分転換等の支援をしている。	洗濯干し、たたみ・食器拭き・掃除など日々のかかせない仕事をして頂くことで生活に張りを持たせ、充実感を持っていただく。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって，戸外に出かけられるよう支援に努めている。また，普段は行けないような場所でも，本人の希望を把握し，家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩・病院受診・地域のイベント等の他、本人の希望があれば家族や地域の方の協力を頂いて、出来るだけ出かけられるよう支援している。コロナ禍において、制限はあるもののお出かけなどは行っている。	田園地帯に位置するのでコロナ禍でも日常的に散歩には出かけている。暖かい初春には空き地でつくしを採ってみんなで調理することもある。スーパーで服を購入したり、保育所の運動会、とんどに参加したり、神楽を観劇したり非日常の外出も支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は，本人がお金を持つことの大切さを理解しており，一人ひとりの希望や力に応じて，お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理は徹底しつつ、本人が希望した時には使えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項　目（　さくら館　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり，手紙のやり取りができるように支援をしている。	ホームで孤立しないように家族や友人等外部との接触を持っていただく為に、自由に電話を掛けたり・手紙をハガキのやり取りに協力している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）が，利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音，光，色，広さ，温度など）がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常時換気しながらも、館内の温度や湿度は常に気を配っている。不快になるような色や音は出来る限り排除している。季節の花を飾ったり、入居者様の作品や写真を飾ったりして変化をつけている。	リビングは食事を作りながら利用者を見守り、会話することができる明るく安心安全な共用空間としている。つかず離れずの距離感で食事時に楽しい会話が生まれるようテーブルの大きさや配置を工夫している。壁面にはたくさんの制作物で季節感を採り入れ温かみのある居場所としている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で，独りになれたり，気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングの円テーブルは皆が顔を合わせながらおやつを食べ、お話出来るようにしている。気分や体調によって独りになりたい方は、和室や廊下の椅子を誰でも使えるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は，本人や家族と相談しながら，使い慣れたものや好みのものを活かして，本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の希望により安全を確認したうえで持ち込みをして頂いている。	利用者が制作した染め物の暖簾が各居室の入り口に掛けられ　間違って他の居室に入らない工夫をしている。居室には利用者の制作物がたくさん飾られ楽しい温かみのある空間になっている。机やソファ椅子など馴染みの品で居心地よく過ごせる配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして，安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各人が自分の能力を発揮出来るよう、館内は安全かつ動きやすいよう整備している。		

V　アウトカム項目（　さくら館　）← 左記（　）内へユニット名を記入願います			
56	職員は，利用者の思いや願い，暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が，一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は，一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は，職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は，戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は，健康管理や医療面，安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は，その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により，安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は，家族が困っていること，不安なこと，求めていることをよく聴いており，信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
65	運営推進会議を通して，地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり，事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は，活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項　目（　もみじ館　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ　理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員は，その理念を共有して実践につなげている。	理念を作成して、ホーム内の目にふれやすい場所に掲示してある。時代の言葉に即してその都度更新している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ホームの行事、地区の行事で積極的に交流していたが、今年度はホーム行事（奉仕作業・晩夏、お庭でコンサート）のみ。推進会議は、できる限り行っているが、書面のことが多い。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は，実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を，地域の人々に向けて活かしている。	推進会議で近況、入所状態を話し合っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では，利用者やサービスの実際，評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い，そこでの意見をサービス向上に活かしている。	書面による運営推進会議が多いが、開催できた時は、有意義な意見交換ができ、サービスに活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り，事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら，協力関係を築くように取組んでいる。	市の担当者にも運営推進会議に参加して頂いている。運営推進会議の議事録、ホーム便りを市に届けて連携に努めている。書式会議の書面の書き方などアドバイスをして頂いている。		

自己評価	外部評価	項　目（　もみじ館　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており，玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中、全ての出入り口は施錠していない。自由に出入り出来る環境を整えている。言葉による身体拘束も気を付けている。研修に参加し、少人数によるミーティングで伝達講習をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は，高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち，利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い，防止に努めている。	常に職員同士で話し合いの場を持ち、見過ごしはないか注意を続けている。年に1回勉強会をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は，日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち，個々の必要性を関係者と話し合い，それらを活用できるよう支援している。	推進会議の時、包括支援センターの方に成年後見制度などについて説明して頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結，解約又は改定等の際は，利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね，十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ホーム内の見学・説明をしている。パンフレット・重要事項のしおりを見て頂き、不安や質問を聞いて入居の運びとなる。		
10	6	○運営に関する利用者，家族等意見の反映 利用者や家族等が意見，要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け，それらを運営に反映させている。	家族会会議が出来ない中、家族会会長様の案で、ご家族様アンケート・個別面談などを行い、ご意見を聞き運営に活かしている。		

自己評価	外部評価	項　目（　もみじ館　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は，運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け，反映させている。	ミーティングは少人数で行っている。出来るだけ議題を集めてから話し合うようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は，管理者や職員個々の努力や実績，勤務状況を把握し，給与水準，労働時間，やりがいなど，各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	ADLの変化に伴うことで、職員の人員配置・労働時間・勤務状況など柔軟に対応出来るようにしている。また勤務中の転倒防止やストレスケアについて勉強会なども行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は，管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し，法人内外の研修を受ける機会の確保や，働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ミーティングにて、伝達研修を行っており、管理者・職員マニュアルにのっとり教育を行っている。施設内の勉強会・外部研修も積極的に参加を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は，管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり，ネットワークづくりや勉強会，相互訪問等の活動を通じて，サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム協会の研修・総会の参加に努めている。		
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で，本人が困っていること，不安なこと，要望等に耳を傾けながら，本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居に際し、ご本人・ご家族様に要望や情報を拝聴している。その後のコミュニケーションを通して聞いたことや生活後の本人の希望などスタッフ間で情報の共有をしている。		

自己評価	外部評価	項　目（　もみじ館　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で，家族等が困っていること，不安なこと，要望等に耳を傾けながら，関係づくりに努めている。	入居までの生活状況・不安に思っておられる事など事前にお聞きしている。その他にも面会時やイベント毎に場を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で，本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め，他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人・ご家族様双方の意見や要望をまとめて全体的にとらえ、納得のいくサービスが提供出来るように努めている。とにかくしっかり話を聞くことに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は，本人を介護される一方の立場に置かず，暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日々の生活の中で、料理・洗濯など、スタッフと共に手伝って頂いている。教えてもらったりして、共に生活する家族のような関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は，家族を支援される一方の立場に置かず，本人と家族の絆を大切にしながら，共に本人を支えていく関係を築いている。	行事・イベントに出来るだけ参加して頂き、ご本人も含めご家族の方とお話をする機会を設けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう，支援に努めている。	ご家族・契約者様の拒否がない限り、できる限り昔なじみの方や近所の方など面会して頂いている。コロナ禍では、直接接触しない形で面会して頂いている。		

自己評価	外部評価	項　目（　もみじ館　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し，一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い，支え合えるような支援に努めている。	テーブルを囲んでのおしゃべりやレクリエーション等で皆が関われるように努めている。難しい場合はスタッフが間に入ったり、少し距離をあけるなどして、孤立する方がいないように気を配っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても，これまでの関係性を大切にしながら，必要に応じて本人・家族の経過をフォローし，相談や支援に努めている。	死亡による契約終了時には相談支援はほとんどない。転院等の場合は、相談にのったり、関係が継続するように努めている。契約終了後も推進会議やホーム行事、文化祭などお誘いし参加下さっている。		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望，意向の把握に努めている。困難な場合は，本人本位に検討している。	出来る限り本人の希望に耳を傾け、意向にそえるよう努めている。困難な場合には、家族を含め担当スタッフを中心に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方，生活環境，これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族・ケアマネからの情報や、本人の日々の会話・コミュニケーションの中から生活歴を見つけ、サービスにつなげ、向上に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方，心身状態，有する力等の現状の把握に努めている。	旧の生活状態を入居者様ごとに記録し、変わっている様があれば、申し送り等で全スタッフが把握し対応できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項　目（　もみじ館　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について，本人，家族，必要な関係者と話し合い，それぞれの意見やアイデアを反映し，現状に即した介護計画を作成している。	よりよいサービスを提供できるよう、ご本人・ご家族様とスタッフが話し合いを持ち、全体ミーティング等で気づき・アイディアを出し、介護計画を作成している。ご家族様の要望も聞いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果，気づきや工夫を個別記録に記入し，職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子等、ライフシートに細かく記録し共有している。それをもとに全体ミーティング時に意見交換し、ケアの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況，その時々に生まれるニーズに対応して，既存のサービスに捉われない，柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ケアプランの施設サービス計画書を活用し、日々の個々のニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し，本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	年間行事として、保育所との交流・地域行事（とんど・運動会・秋祭り・神楽）などに参加していたが、コロナ禍で今年度は、保育所との交流のみ。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は，本人及び家族等の希望を大切にし，納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら，適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人・ご家族様の意向に添ったかかりつけ医と密に連携している。安心して適切な医療を受けていただけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項　目（　もみじ館　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		**○看護職員との協働** 介護職員は，日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを，職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し，個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	入居者様の体調に変化がある場合は、すぐに看護師に連絡し、指示をあおぎ、医療と介護が連携できるよう支援している。		
32		**○入退院時の医療機関との協働** 利用者が入院した際，安心して治療できるように，また，できるだけ早期に退院できるように，病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は，そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	スタッフが見舞いに出向き、本人の好み・習慣・楽しみなどの情報提供に努めている。本人にもなじみの物・知っている顔が居ると安心されるので会話に努めている。入院時には必ずサマリーにて情報提供している。ADLや認知症の悪化の危険がある場合は、主治医を通して早期の退院を促してもらっている。		
33	12	**○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援** 重度化した場合や終末期のあり方について，早い段階から本人・家族等と話し合いを行い，事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し，地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時の段階で少しお話させて頂いて意向など聞いている。また時期をみて、ご家族様と面会を重ね意向を再度聞いている。それをもとに、スタッフ・ご家族様共々、良い看取りが出来るよう密に連絡を取り、支援に努めている。コロナウイルスの事についても、個別面談で意思確認を行っている。		
34		**○急変や事故発生時の備え** 利用者の急変や事故発生時に備えて，全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い，実践力を身に付けている。	マニュアルがあり、緊急時には速やかに対応出来るよう備えている。新人研修は勿論、定期的に対応の訓練など勉強している。		
35	13	**○災害対策** 火災や地震，水害等の災害時に，昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに，地域との協力体制を築いている。	年に2回、法人内にて訓練を行っている。コロナ禍のため、地域の方の参加者は減っている。		

自己評価	外部評価	項　目（　もみじ館　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し，誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報に注意し、言葉使いを丁寧いしてプライバシーにも気を付けている。人生の先輩として尊敬の気持ちを忘れないようよう心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり，自己決定できるように働きかけている。	スタッフ本意にならないように、自己決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく，一人ひとりのペースを大切にし，その日をどのように過ごしたいか，希望にそって支援している。	長く生活されている方の生活スタイルはだいたい決まっているが、新しい方に対しては情報収集をもとに声かけをさせて頂き、希望にそって支援出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝の起床時には、髪を整えたり・洗顔したりと気持ちよく１日を過ごして頂けるようにしている。服なども自分で選んでもらったり、一緒に選んだりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう，一人ひとりの好みや力を活かしながら，利用者と職員が一緒に準備や食事，片付けをしている。	それぞれの好みが反映されるよう、味付け・盛り付け等を手伝って頂いている。		

自己評価	外部評価	項　目（　もみじ館　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	１日の水分摂取量を1500～1600CCとして、脱水症にならないよう気を配っている。食事に関しては、各人の必要な量・栄養に気を配り、必要に応じて食事形態を変えたり、器等を変えたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に、歯磨き・歯間ブラシ・舌ブラシ・うがい薬を使っての口腔ケアの支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	各人の排泄パターンを把握し、声かけ等をして習慣づけるよう支援している。これにより失敗やオムツ・パットの使用の軽減につなげている。使用するパットも各人に合わせて種類を変えている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	予防として適度な運動や水分補給に気を配り、食事時に関しても食物繊維の摂取に気をつけている。また、排泄の有無をチェックし必要であれば、薬や看護師に依頼し浣腸介助して頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	多少の制限はあるが、出来る限り本人の希望日・時間にゆっくり楽しんで入浴していただけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項　目（　もみじ館　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて，休息したり，安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	各人の身体や気持ちの状況に応じて、体を休めたり、心を配っている。夜間も出来るだけリラックスして安眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用，用法や用量について理解しており，服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬１つ１つの目的・副作用等は勉強会を設け、薬剤師から直接指導を受けている。誤薬や飲み忘れのないよう管理を徹底している。		
48		○役割，楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように，一人ひとりの生活歴や力を活かした役割，嗜好品，楽しみごと，気分転換等の支援をしている。	洗濯たたみ・食事作りなど日々の欠かせない仕事をして頂くことで生活に張りを持たせ、充実感を持っていただく。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって，戸外に出かけられるよう支援に努めている。また，普段は行けないような場所でも，本人の希望を把握し，家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩・病院受診・地域のイベント等の他、本人の希望があれば家族や地域の方の協力を頂いて、出来るだけ出かけられるよう支援している。コロナ禍において、制限はあるもののお出かけなどは行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は，本人がお金を持つことの大切さを理解しており，一人ひとりの希望や力に応じて，お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理は徹底しつつ、本人が希望した時には使えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項　目（　もみじ館　　）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（　）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり，手紙のやり取りができるように支援をしている。	ホームで孤立しないように家族や友人等外部との接触を持っていただく為に、自由に電話を掛けたり・手紙をハガキのやり取りに協力している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）が，利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音，光，色，広さ，温度など）がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常時換気しながらも、館内の温度や湿度は常に気を配っている。不快になるような色や音は出来る限り排除している。季節の花を飾ったり、入居者様の作品や写真を飾ったりして変化をつけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で，独りになれたり，気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングの円テーブルは皆が顔を合わせながらおやつを食べ、お話出来るようにしている。気分や体調によって独りになりたい方は、和室や廊下の椅子を誰でも使えるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は，本人や家族と相談しながら，使い慣れたものや好みのものを活かして，本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の希望により安全を確認したうえで持ち込みをして頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして，安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各人が自分の能力を発揮出来るよう、館内は安全かつ動きやすいよう整備している。		

Ⅴ　アウトカム項目（　　もみじ館　　）← 左記（　　）内へユニット名を記入願います			
56	職員は，利用者の思いや願い，暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が，一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は，一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は，職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は，戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は，健康管理や医療面，安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は，その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により，安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は，家族が困っていること，不安なこと，求めていることをよく聴いており，信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
65	運営推進会議を通して，地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり，事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は，活き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

（様式２）

２　目標達成計画

事業所名　グループホーム湯舟の里

作成日　　令和４年５月１２日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点，課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	47	薬局との連携がうまくいってない。	薬局との円滑な連携と職員の薬に対する正しい知識を深める。	ミーティングに薬局の方に参加して頂き、勉強会を開いてもらう。	１年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注１）項目番号欄には，自己評価項目の番号を記入すること。
注２）項目数が足りない場合は，行を追加すること。